

# マッシュエサの底釣り

## ●グルテン配合で持たせ方の調整が思いのまま 巨べら200cc+新べらグルテン100cc+水200cc



+



+



### ●特徴

全て混ぜて水を入れるだけと作りやすく、グルテンエサが配合されているので多少の練りこみや手もみでエサの持たせ方を調整できる。大きさも大きめで持たせたり、硬さで持たせたりと思いのままだ。

### ●作り方

ボウルに「巨べら」と「新べらグルテン」を入れ、軽くかき回す。そこへ水を注ぎ素早くかき回す。この時、熊の手で飛び散るくらいに強くかき回すのがコツだ。全体がムラなく混ざったら、5分くらい放置する。水を吸い込んで、エサが安定したら、10回くらい指に力を入れてかき回す。

### ●使い方のコツと手直し

丁寧に丸く付けるが、持たないときは大きくしていき、練りこむ場合はボールにこすり付けるように5回ずつ練りをいれ、持たせていく。持ちすぎでウキが上がってこないということはないと思うが、もしそうなったときは、経時変化してネバリが出てしまったと言えるので、作り変えること。

## ●重さがあり、集魚効果大

## マッシュポテト200cc+水150cc+へらスイミー100cc



+



+



### ●特徴

重さが適度にあり、バラケながら膨らむのでより集魚が必要なもの釣りで効果的。

### ●作り方

マッシュポテトをボウルに入れ、水を加え、全体に水がいき渡るようにかき回す。マッシュポテトは吸水に時間がかかるので、5分ほど放置。安定したら、へらスイミーを加え、指に力を入れて30回くらいかき回す。2分放置後、ボールにこすり付けるように、10回くらい練りこむ。

### ●使い方のコツと手直し

硬くしたいときは、「へらスイミー」を加えると良い。マッシュエサの場合、経時変化する前に使い終わる量を作るが、使い切れないときは、エサ打ちが足りないと言えるので、経時変化する前に打ち切るようにする。

# マッシュエサの宙釣り

## ●軽くバラけて、大型を飛び込ませる マッシュポテト200cc+水150cc+ ガッテン100cc+グルバラ50cc



### ●特徴

軽くてバラけるのが最大の特徴。マッシュは芯が大きくしばらくハリ持ちするが、最後は割れ落ちてしまう。その欠点を魅エサでカバーするブレンド。

### ●作り方

「マッシュポテト」をボウルに入れ、水を加える。全体が水に浸るようにして3分以上放置。水を吸いきったら、ガッテンを加え、熊の手で全体が混ざるようにかき回す。そこへグルバラを加え、熊の手でムラがなくなるようにかき回す。1～2分放置後、30回くらい指に力を入れてかき回す。この時、エサ全体の粒子がやや角が取れたことを確認する。

### ●使い方のコツと手直し

エサを打つ前に10回くらい、ボウルに押しつけるように練る。持たないときはエサ付けを大きくする。大きさを持たせる考え方が、限界があるので、バラけ過ぎると感じたときは、グルバラを加えて練りこむ。基本的には軟らかめでネバボンタッチに仕上げること。

## ●魅エサを入れずに大型狙い 巨べら200cc+尺上100cc+水250cc



### ●特徴

作るときにダマができにくく、まとまりやすいブレンド。その上、いきなり粘ってバラけなくなるわけでもない、ベストなネバボンが簡単に作れるお勧めの配合だ。

### ●作り方

「巨べら」と「尺上」をボウルに入れ、水を入れて素早く全体に水がいき渡るようにかき回し、5分位放置。吸水したら、15回くらいボウルに押しつけるように練りこむ。

### ●使い方のコツと手直し

マッシュエサは、粘らせたり、硬くしたりすると、魅エサのように周りから剥がれるようにバラけることがないので、持たせすぎに注意。バラけるエサを大きさを持たせて寄せながら釣る、大型を飛び込ませるイメージだ。

## ●釣り方のコツ

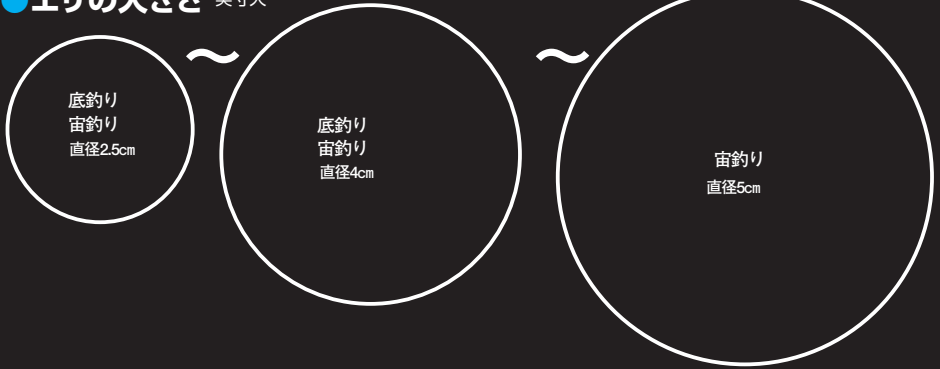
繰り返し返すようだが、エサは経時変化してネバリが出る前に使い切ることが大切。大きなエサを打つので、たくさん作らなければならないが、それを使い切るようにすることが、この釣りの最重要ポイントと言える。

エサ打ちには、底釣りのときは待ちすぎず早すぎずが大切。サワリがあるときは待つが、ないときは待ちすぎずに打ち返そう。

宙釣りのときは、「なじんだら切る」が基本。サワリが出て、なじみきってドンとアタるまでは待たない。1日、このリズムで打ち切れるかどうか、この釣りの肝となる。

また、大体の目安だが、大型の場合、暖かい時期はそれほど深場に入るといったことはない。むしろ浅い場所を回遊していることが多い。

## ●エサの大きさ 実寸大



## ●オモリ 絡み止めタンクステンオモリ 実寸大

1g

+

1m前後●  
0.25mm厚板オモリ  
17mm×10mm

※釣るタナによってオモリ量を変えていく

2m前後●  
0.25mm厚板オモリ  
17mm×15mm

3m前後●  
0.25mm厚板オモリ  
17mm×20mm

## ●基本セッティング

考え方としては大きなウキで、太い糸で、大きなエサを打つというもの。竿はしっかりとした物を使うこと。セッティングは竿の長さやシチュエーションによりかなり違ってくる。長い竿の場合はミチイト1.5号、ハリス0.8号で充分だが、短い竿になるとミチイト2号、ハリス1号となり、さらに周りに掛かりなどがあり、充分に竿をためることができない場合は、ミチイト3号、ハリス2号といった、強力な仕掛けが必要だろう。ハリスは伸びないものを使いたい。大きさは、エサが落ちてしまい打ち込めないときはハリスをどんどん大きくしていく。最大18号、20号もある。

竿●8~21尺(底釣り)、  
8~18尺(宙釣り)

ウキ●(底釣り)羽根寸8~15cm  
(タナが深いほど大きくする)、  
(宙釣り)羽根寸8~12cm

ミチイト●1.5~3号

ハリス●0.8~2号  
(底釣り)上30~40cm、下35~50cm、  
(宙釣り)上40~50cm、下45~65cm

ハリ●8~10号(底釣り)、  
10~15号(宙釣り)

